僕らの日常生活～ゲームプレイ？～

かたこと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
僕らの日常生活～ゲームプレイ？～

【Ｎコード】
Ｎ５７８０Ｏ

【作者名】
かたこと

【あらすじ】
ただの日常生活ッスヨ。
それしか、イエナイッス

（前書き）

なんか、できちゃった的な？
たるかったらいいよ。ツバつけて帰ってねｂ

こんにちわ。僕の名前はミック。外国人？とか思った奴、そいつは違うな！
これは小説って事なんだろ？なら、いいじゃねぇか！アニメとか見ろよ！皆、日本語ペラペラやん。
っということでもっかい。
こんにちわ。僕の名前はミック。　よろしくぅ～、、、

「お～い。ミックゥ～」

そして、このうるさいのはクルト。またの名をヤクルト。
またの名ってなんだよ！って思った奴、そいつは違うな！
またの名＝ニックネーム　っということだ！
じゃぁ、最初からニックネームって言えばいいじゃん？って思った奴。それも違うな！
『またの名』っていった方がかっこいいだろ？　な？　だろ？　『ただの自己満足だよ！』
き、きれた。　っとか思った奴。　判決　バンバン　『死』　死刑じゃない。　『死』
デスノート的な？感覚で　『死』
話を戻すがちなみに俺はヤクルトが大好きである！あの、うまさは最高だよ。クソ~　飲みたくなってくる。
本場前にも飲んだが　また、飲みたくなってきたじゃねぇか！　クソォ~

「おい、おい、お～い」
「うるせぇ～！」
「えええぇぇぇぇぇ。」

「ぁ、クルトか、、、」
「誰だと思ったんだよ。」
「ん～、、幽霊かなんか？」
「怖いし。。。。」
「っでなんの用だ？」
「ぁ、そうだ。そうだ。ってゆうかその前に、何さっき夢中になってブツブツと独り言じゃべってたの？
内容おしえろやい」
「ん？あぁ～。クルトがこの世からいなくなればいいのにって言ってたかな」
「ひ、ひど！聞かなければよかった、、、　（テンション←←←）」
「で、なんの用なんだよ？」
「あぁ～。そうだ、そうだ。新しいゲームが手にははいったんだよ！」
「何がおきたの？」
「なんか、遊んでたらなんかくれた。」
「こえぇよ！なんだよ。その展開、、、捨てるべきではないのか？
それ。」
「いやぁ～。せっかく？ゲームが？手にははいったんだし？ちょっとぐらいやるぐらいいいんじゃねぇかなって」
「お前のゲーム好き度はハンパじゃないからな。そうだ、クルト」
「ん？」
「お前に言わないといけないことがある。」
「なんだよ？」
「これ、小説だから」
「ぇ？　これ？」
「うん」
「まじ？」
「うん」
「この世界？」

「ｙｅｓ」
「ガチ？」
「おう、」
「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」
「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・」
「しらなかったぁ。。。」
「って、俺が主人公でお前は俺の友人っていう『せってぃ！！』」
「なんで、設定を強くいったんだよ。なんか、かなしくなってくる
じゃねぇか。これだけの友人だなんて、、、、、、」
「あぁ、そうだな。悲しくはなってこないかな。」
「ヌ　、、　ひどいじゃねぇか。。」
「っということだ。ささっとお前の家にいくぞ。」
「うん、、、　（さらに、テンション←←←）
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

ただいま、場所：クルトの家

「って、カセットみしてくれよ。」
「うん、わかった。　ホイ」
「ん？「クルートクエッションなんてことはないんだよ。ぁ、間違
えた。クエストだった。ハハハどじだな。俺も、、以下省略」　・・
・・・・・。　題名なのか？これ？」
「これが題名っぽいよ。」
「まぁ、いいや。題名こんなんでも、中身が面白ければ問題なしだ
な。さっそくやるぞい！」
ギュイーン　（読み込み効果音）
ツパ　（ゲームの画面が出た効果音）
ツテッテレテレテレテッテッテッテッテッテェー　（※適当にリズム
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

は作っといてください）
「ついた、ついた。「クルートクエッション（以下省略」そこで以下省略しちゃだめだろ！まぁ、いいや。」
ッピ　（ボタン効果音）　ッピ　（ボタン効果音）
「名前・・・・。『ペクトル』ってでいい？」
「うん、なんでもいいよ。俺のゲームだけどね！名前とかどうでもいいよ。」
「ぇ！本当は自分でつけたいんじゃぁないの？」
「・・・・・・・・・・」
「・・・・・・・・・・」
「・・・・・・・」
「まぁ、、いいや、じゃぁ。スタート！！」

ッピ　（スタート効果音）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～オープニング～～

「・・・・・・・」
「・・・・・・・・」
「オープニングはちゃんとしてたな・・・・・。」
「うん」
「でも、なんかドラクエのパクリっぽかったな。」
「うん、」
「さてと、家からのスタートか、、普通だな。」
「だな。」
テュルテュルテュ　（会話音）
～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～
～～ゲームの会話～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

~~~~~~~~~~~~~~~~~
「おい。起きたか、、」
「ん~、、、父さん？」
「おう。ペクトル！今日も、修行だぁああぁ、、、ぁ、、、ぁ、、、
」
グバ　（血を吐く音）

「父さん！」
「フッハっハ。背中をついに見せたな！」
「ッグ、リザーク、、、」
ズバ　（剣を抜く音）　バタ　（父が倒れる音）
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
「・・・・・・・・・・・・・・・」
「・・・・・・・・・・・・・」

二人で「展開はぇぇ～（Σ」

ミックは先にしゃべった。

「早すぎるだろ！」
「そうだな、クソゲーの匂いがめっちゃするな」
「まぁ、とりあえず、進めてみようか」
「そうだな。」
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
~~~~~~~~~~~ つづき~~~~~~~~~~~~~~~~
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
リザーク「じゃぁな！仇をとりたければ強くなってみせよ！」
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

ペクトル「クソー！」
リザーク「フッハッハッハッハッハ」
そして、ペクトルはまだ、朝ご飯を食べてない事にきづき朝ご飯を食べました。

モシャモシャ　（食べる音）
~~~~~~
「・・・・・・・。めっちゃ気楽ぅぅぅぅぅぅぅぅぅ」
「あぁ、やばい。クソゲーの匂いしか感じられない、、、」
「ごもっともだ。まぁ、つづきといこうか。」
「そうだね。」
「ぁ。動かせるようだ。さて、武器でも買って外に出て戦いにでもいくか！」
「お待ちかねの戦闘だ！」

テュルテュルテュル　（会話音）
「らっしゃい。何の用だい？武器、防具っとソロってますよ」
「さてと、まず、武器だな。って言うか忘れてた。金もってんのか？」
「ん~、わかんねぇ。調べてみたら？」
ッピ　（音）　ッピ（音）
「え~っと、、、お金、お金っと・・。・・・・・。0ディル。。」
~~~~~~

。」
「お金ないやん！時間損したなぁー。しかも、ディルってなんだよ・・。ドルじゃねぇのかよ！（Σ」
「まぁ、そこんとこは気にせずいこうよ。」
「まぁ、そうだな、、」
「さて、外出てみる？」
「そうだね。」
「ん？ちょっとまてよ。倉庫？、、、」
「そ、倉庫、、、」
二人で「なんで、もってんだよ！（Σ」
「倉庫の意味ねぇ～！！」
「意味ねぇ～！！」
「はぁ、なんか、疲れてきたんだけど、、、」
「俺も、、、」
「とりあえず、ちょっとぐらいお金を持ってたりしないかな？っと、、
お金、お金、、、」

ポチ

「、、、、、９９９９９９９９（９億９９９９９万９９９９９ディル」
二人で「多いよ！（Σ」
「ＭＡＸ単位じゃねぇ？これ、、、チートかよ！！俺らは何もしてねぇぞ！何も悪くねぇよ？」
「あぁ、俺らは何もしちゃぁ、いない！」
「まぁ、いいさ！お金はお金使ってしまおう！」

ポチ

「武器屋の人（ゲーム内）：らっしゃい！何を買ってく？っていう

か、全然、いい商品ないんだけどね？だけど、お前を見たところ弱そうだな？なら、こんなんでも十分だろ？ほら、買ってけや！おら！さっさと買ってしまいな！」

二人で言った「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇ（Σ」

「何、この人！」

「なんか、うざいな（怒）」

「まぁ、いいさ！さて、買ってしまおうか、、、」

「だぬ。」

「ん～、これでいいか。」

ポチ　「買いますか？」

「買うっと、、」

「武器屋の人（ゲーム内）：あぁ？んだ？てめぇわ？お金がないからってだましに入ってんじゃねぇよ！

調子に乗ってんじゃねぇよ？あぁ？ごら！こりゃぁ、偽金だ！」

っと言われ外に蹴飛ばされた。　（ペクトルは蹴飛ばされたことにより５０のダメージを受けた。）

テュ～テュテュテュテュ～ンテュルテュン　（※勝手にリズムをつくっといてください。）

§ゲームオーバー§

二人で言った「えぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ」

「もう、やってらんねぇよ！」

「なんか、いらついてきたぁー。」

ブチ　（ゲームの電源が切れる音）

「はぁ、、、はぁ、、、、。ふぅ～！こんなの捨てた方がいいって！」
「そうだな、捨てようか！」

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
~~~~~~~外~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

「俺捨ててもいい？」
「あぁ、いいぜ！」
「おらぁぁぁぁぁぁぁぁぁ」

ガシャン　（カセットがゴミ箱付近に落ちる音）

そして、俺らの1日は終わった・・・。ゲームはどうなったかだって？しらんな、、あんなゲーム、、、
思い出したくもねぇよ！なんか、また、いらついてきたぁ、、。
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

（後書き）

ん〜。。最後とかもうめんどくなったw書くのがめんどくなったw

そんな感じのコメでいいよ、、

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5780o/

僕らの日常生活〜ゲームプレイ？〜

2010年11月12日10時03分発行